

1 題材名 わくわく すごろく大会

2 題材について

(1) 教材観

本題材は、ルールを守ってみんなで楽しんだり、競ったりしながらゲーム活動することを主な内容としている。自閉症・情緒障害学級の児童にとって、①見通しをもち流れに沿って活動すること②友達と仲良くし、仲間との活動を楽しむこと③自分の気持ちをコントロールし、ルールを守ったり友達の気持ちを思いやったりして活動することは重要な学習内容であると考え。すごろく遊びは、ルールや課題に沿って活動することが重要で、また各種の活動がそれぞれのトレーニングとなるのみではなく、仲間との協力・競争を通して、集団活動の楽しさ・悔しさを実感することのできる活動でもある。さらに、進んで活動しようとする気持ちを育て、自分の気持ちをコントロールする経験を得ることのできるものであり、上記の3つを学ぶのにとっても適したものである。

児童のトレーニングともなる様々な活動を体験させるために、すごろくのチャレンジ項目には、トランポリン・段ボールくぐり・ミニ平均台などの全身運動、ペグさし・ビーズ通しなどの手先の運動、早口言葉や簡単な計算などの学習等を取り入れた。

○ 系統について

前年度の体を動かす合同学習では、動物のまねをしているいろいろな動きをする活動を取り入れた。今年度、児童は1学期間2～5人程度の小集団活動を行うことで、少しずつ友達と仲よく流れに沿って活動することのよさや決まりの大切さを意識し始めてきた。しかし、まだ集団の中で指示の内容を理解して順番や決まりを守って活動したり、自分の気持ちをうまく表現したりすることを苦手としている児童も多い。そのため、段階的に集団を大きくし、多くの友達と関わりをもつことができるようにしていきたい。この活動では、いつもの学級だけでなく、違うメンバーとも関わることで、児童それぞれの課題を学ぶための新たな場になるのではないかと考え、2クラス合同学習を設定した。

(2) 児童の実態 (1組6人, 2組 7人 計13人)

本題材では、2学級で合同学習をする。明るく活動的で動くことが好きな児童、やさしく友達のことを思いやることのできる児童もいるが、初めての活動には不安やとまどいを隠せない児童、感情をコントロールすることや待つこと・我慢すること、巧みに体を動かすことが苦手な児童も少なくない。

学級	学年	児童	題材に関する児童の実態	目 標
1組	5年	A	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことは好きだが、肥満傾向にありスムーズに動けないことがある。 優しく友達に好かれているが、自分の意見を友達に主張することは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの運動にあった体の動きを練習することができる。 必要な時は、自分の考えを友達に伝えることができる。
		B	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びが嫌いではないが、初めての活動や運動量が多い活動だと、動かなくなる。 授業中ということを考えずMとふざけっこなどしてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちをコントロールし、ルールに沿って活動することができる。 ふざけないで、授業に参加することができる。
	4年	C	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きだが、活動に見通しがもてずに遅れてしまうことがある。 集団の中では自分の気持ちをうまく伝えられないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的な掲示物を手がかりに、見通しをもつことができる。 ペアで活動することで、相手に自分の気持ちを伝えることができる。
		D	<ul style="list-style-type: none"> 友達と運動することを好むが、首に障害があり、頭部を下に向ける活動はできない。 友達に自分の気持ちや考えを言いたい時、躊躇してしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的な掲示物を手がかりに、見通しをもち活動することができる。 ペアで活動することで、相手に自分の気持ちを伝えることができる。
2年	E	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きだが、活動に見通しがもてずに遅れてしまうことがある。 集団の中ではうまく自分の考えを表現できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的な掲示物を手がかりに、見通しをもつことができる。 ペアで活動することで、相手に自分の気持ちを伝えることができる。 	

		F	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きだが、初めての活動だと戸惑うことがある。 ・合同学習の経験が少なく、どう振る舞えばいいのか戸惑うことが予想される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様子を見ながら活動の見通しをもち、みんなと活動することができる。 ・助言を受け、個々の戸惑った場面での行動の仕方を学ぶことができる。
組	5年	G	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことは得意であるが、初めての活動に臆してしまうことがある。 ・友達と活動することを好むが、自分の考えを押しつけようとしてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を頼りに活動に見通しをもち、下学年生と活動することができる。 ・下学年生を応援しながら、相手のよさやがんばりを伝えることができる。
		H	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが大好きであるが、動きにぎこちなさが見られる。 ・友達との関わりを好むが、自分の思ったことをそのまま口にしてしまうこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きを一つ一つていねいに最後まで行うことができる。 ・友達のがんばりや自分のがんばりを伝えることができる。
		I	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことに興味があり活動的であるが、持続力に課題がある。 ・自分中心に考えてしまい、気持ちのコントロールが難しい時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちをコントロールし仲良く活動することができる。 ・下学年生の気持ちを考えながら、自分の気持ちを伝えることができる。
	4年	J	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが大好きであるが、大きな声や音が苦手である。 ・友達との関わりを好むが、気持ちを考えたり、伝えたりすることは難しいときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示等を手がかりに、見通しをもって活動することができる。 ・必要に応じて、自分から気持ちや考えを伝えることができる。
	3年	K	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きだが、苦手なことや失敗にこだわってしまうことがある。 ・集団の中では自分の気持ちをうまく伝えられないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良く参加し、自信をもって活動に参加することができる。 ・友達を応援し、友達のがんばりや自分のがんばりを伝えることができる。
	2年	L	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きだが、初めての活動だと戸惑うことがある。 ・集団での活動に臆することがありどう振るまえばいいのか戸惑うことが予想される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や友達の様子を見ながら、活動に参加することができる。 ・支援を受けながら、戸惑った場面での活動の仕方を知ることができる。
M		<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことは大好きであるが、興味がそれやすい。 ・集団の中で指示が通りにくく、自分中心に活動しようとしてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを振り返りながら最後まで流れに沿って、活動することができる。 ・Bとふざけあわないで活動することができる。 	

(3) 指導観

本学級の児童の実態等も鑑み、本題材では ①見通しをもち流れに沿って活動すること②友達と仲良くし、仲間との活動を楽しむこと③自分の気持ちをコントロールし、ルールを守ったり、友達の気持ちを思いやったりして活動することの3つを指導していきたいと考える。

様々な動きを体験させるために、ミニ平均台渡り、段ボールくぐり、トランポリン、足じゃんけんなどの全身を使った運動、ビーズ通し・ペグさしなどの手先の運動、ペーパー積みや時間当てなど静止する運動、早口言葉や簡単な計算などの学習等バラエティーに富んだ内容にしていきたい。

2学級の合同学習なので、友達との関わりや異学年との交流を深めるため、個々の特性を配慮したペアを組み、仲間と協力して勝って喜んだり、負けて励まし合ったりする経験、すごろくを楽しむ経験など悔しさや喜びを実感し必要に応じて自分の気持ちをコントロールする経験をさせ、社会性を伸ばす一助にするとともに、活動の楽しさも実感させたい。

また、流れに沿い意欲的に授業に参加できるように、指導にあたっては、めあてや流れを視覚的に掲示するなど明確にし、児童に活動への見通しをもって取り組ませたり、それぞれの児童に合った役割や支援を考えたりしたい。

更に集団活動の中での課題は一人一人違うので、カードの作り方などを工夫し、自分なりの課題を意識させ活動できるようにしていきたい。

○ 「集中して聞き、考えを深め、伝える力」の育成のための手立て

集中して聞けるよう、話をする場面には視覚的な理解の手立ても用意する。自分の気持ちを考えたり、活動を

振り返ったりするとともに、伝える力を養う支援ツールとして振り返りカードを用いる。伝える力の実践の場として、また、友達の話聞いて自分の考えを深めるための場として、まとめの場面で発表の時間をとる。

3 学習計画（6時間扱い）

- 第一次 オリエンテーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 第二次 チャレンジにチャレンジ！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- 第三次 わくわくすごろく大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間（本時は第2時）

4 本時の学習

(1) 個別目標

チーム	児童	個人目標
A	G	・友達の様子を見ながら活動の見通しをもち、下学年の友達に配慮して活動することができる。
	F	・活動の手順やルールが分かり、楽しく活動することができる。
	L	・道具や友達の様子を見ながら活動の見通しをもち、みんなと活動することができる。
B	H	・自分の気持ちをコントロールし、ルールに沿って活動することができる。
	K	・友達に声や体で自分の考えを伝え、楽しく関わることができる。
C	A	・友達の様子を見ながら活動の見通しをもち、下学年の友達に配慮して活動することができる。
	E	・道具や友達の様子を見ながら活動の見通しをもち、楽しく活動することができる。
D	I	・見通しをもち、また下学年の友達に配慮して活動することができる。
	M	・自分の気持ちをコントロールし、ルールに沿って活動することができる。
E	B	・自分の気持ちをコントロールし、ルールに沿って活動することができる。
	J	・活動の手順やルールが分かり、楽しく活動することができる。
F	C	・活動の手順やルールが分かり、楽しく活動することができる。
	D	・無理な動きはせず、友達とのゲームを楽しむことができる。

(2) 準備・資料

すごろく、CDプレーヤー、CD、がんばりカード、シール、トランポリン、ミニ平均台、段ボールトンネル、トイレットペーパー、台、ボール、新聞紙、カラーコーン、フラフープ、バランスボール、ペグ、ビーズ、計算カード、早口ことばカード、ストップウォッチ

(3) 展開

学習活動・内容	教師の支援 (○は「集中して聞き、考えを深め、伝えるための支援」◎は評価)		
	T1	T2	支援員
1 はじめのあいさつをする。	○授業はじまりの態度がとれない児童がいたら、そばに行って支援する。	○静かに教師の方に注目させ、落ち着いて授業を始める雰囲気を作る。 ・Bに授業はじめの号令をかけさせ、高学年の自覚をもたせ意欲的に授業に参加させる。	○Aが正しい姿勢をとれない時は、声かけ等で支援する。
2 本時の課題とめあてを知る。 わくわくすごろく大会をしよう。 ① ルールをまもって ② なかよく ③ みんな たのしく	○Mが話に集中できない時は、発表を促す。	・E・Lらに課題やめあてを読ませ、本時の学習で大切なことを確認する。	○話に集中できない児童には、そばに行って集中を促す。
3 すごろく大会をする。 (1) 準備運動 ・ストレッチ	・体を動かすチャレンジもあるので、準備体操にストレッチなど体をほぐす	・Dの動きをそれとなく見守り、無理な動きはさせない。	・Aがうまく動けない時は、動きのポイントを助言する。

<p>・ジャンプ 等</p> <p>(2) すごろくのやり方を確認する。</p> <p>◎ 人の順番の時は、自分の場所で見学・応援をする。</p> <p>① さいころを振る。</p> <p>② こまを進める。</p> <p>③ 『チャレンジ』をする</p> <p>(3) すごろく大会</p> <p>[すごろくにある『チャレンジ』の主な内容]</p> <p>・全身運動 (平均台・トンネルくぐり トランポリン・フラフープ・動物の動き 等)</p> <p>・手先の運動 (ビーズ通し・ペグさし・新聞ちぎり 等)</p> <p>・学習 (かけ算九九・早口ことば カタカナ 等)</p> <p>・歌</p> <p>・時間当て</p>	<p>運動を取り入れる。</p> <p>・二人で助け合ってどちらかがクリアすればよいこと、相手の気持ちを思いやって協力することが大切なことも伝える。</p> <p>・楽しく「すごろく大会」ができるよう全体の流れに気を配り、必要な助言をする。</p> <p>・『チャレンジ項目』は、読んですぐ理解できる平易な文にしておく。</p> <p>・流れにけじめをつけるためチャレンジが終わったら座って応援することを伝える。</p> <p>・活動にあきないようテンポよく進めたい。</p> <p>・チャレンジが成功したら大きく称賛する。</p> <p>・途中でいやにならずに最後までできるように、様子を見て必要な時に、3つのめあてを振り返る。</p>	<p>○T1の説明に合わせ、実際の動きを児童に見せ、理解を促す。</p> <p>・順番(出番)の指示などは高学年児童の役割とする。必要な助言などをし、自信をもって活動させたい。</p> <p>・すごろくの課題が分かりにくいような時は、T2が見本を見せる。</p> <p>・人との関わり方・言葉遣いなどで指導が必要な時は、その子に合わせてわかりやすくアドバイスする。</p> <p>・失敗しても二人で助け合って最後までがんばれるよう助言する。</p> <p>・H・I・Jが意欲を継続できるように、声をかけたり、うまく活動できた時はほめたりする。</p> <p>・Fが競争で負け、次の活動が出来ない時はもう一度めあてを確認させる。</p>	<p>・すごろくのやり方を掲示し、見通しをもって本時の活動が進められるようにする。</p> <p>・すごろくの近くに用具を準備し、それぞれの活動の場をわかりやすくする。</p> <p>・自信をもって活動できず戸惑っている児童には、活動にあった助言をする。</p> <p>・Dの動きをそれとなく見守り、無理な動きはさせない。</p> <p>・上学年の児童の様子によっては、自分の活動だけでなく、周りの下学年にも気を配るよう助言する。</p>
<p>◎ルールを守って、なかよく、楽しく活動することができたか。(観察・カード)</p>			
<p>(4) 整理体操</p> <p>・ストレッチ</p> <p>・ナマケモノのポーズ</p> <p>4 本時の学習の反省をする。</p> <p>・ がんばったこと</p> <p>・ 楽しかったこと</p> <p>・ 今度ががんばりたいこと</p> <p>5 後始末をし、次時の課題を知る。</p>	<p>・音楽を取り入れ楽しく体操する。</p> <p>○めあてや自分の課題について、チェック・記入できるようにがんばりカードを用意する。</p> <p>・次時の活動に見通しをもたせることにより、意欲を喚起する。</p>	<p>・Dの動きをそれとなく見守り、無理な動きはさせない。</p> <p>○C・G・Kにがんばったことや今度ががんばりたいことを発表させることで次時へ意欲をつなげたい。</p> <p>・後片付けをがんばっている児童を賞賛することで、全体の意欲アップにつなげたい。</p>	<p>・うまく動けない児童には、動きのポイントを助言する。</p> <p>・がんばりカードの記入に時間がかかる児童、記入漏れがある児童を支援する。</p> <p>・危険のないよう目を配る。</p>